

2025年度年末一時金に関する団体交渉経過

---第2回団体交渉：2025年11月12日開催（交渉継続中）---

《会社回答内容（一部抜粋）》

■基準月数

社員（正・地・工） 2.80カ月（過去最高）

※対前年+0.20カ月 / 対夏季+0.10カ月

Fスタッフ・Tスタッフ 1.68カ月（過去最高）

※社員の基準月数の60%

※対前年+0.12カ月 / 対夏季+0.06カ月

■支給期日（予定）

12月15日（月）

■Aスタッフ一時金の業績加算

年末一時金に9,000円を加えて支給する

《第2回団体交渉におけるポイント》

【会 社】 前年度を上回る利益を生み出すことができたことは、本当に皆さんの尽力の賜物であると思っています。各施策への皆さんの尽力も含めて回答しています。

【会 社】 利益を原資とした投資経費の有効活用を通じて社員の幸福を実現する「正のスパイラル」を永続的に循環させていくという考えであり、全社一丸となって、さらに加速させていきたいということが会社の想いとなります。

【組 合】 一時金の回答内容だけではなく団体交渉の内容も踏まえ、「正のスパイラル」が循環しているということを職場に伝え、労働組合としての立場から、組合員・従業員の働きがいに繋げていきたいと考えています。

【組 合】 組合員・従業員の努力・頑張りとその結果である決算状況を踏まえると、もう一步踏み込んだ再度の検討をお願いしたい。

《回答にあたっての会社の考え方（抜粋）》

- 2025年度上期は増収施策の推進により営業収益が増加し、販売管理費の上昇を上回る営業総利益の伸びによって営業利益も増益となりました。
- これは、業績を伸ばした昨年度以降も日々のオペレーションを適確に進めつつ、構造改革や新たな価値創出を着実に進めてきた社員の皆さんの努力と知恵と奮闘があったからこそその成果であり、心から深く感謝申し上げます。
- 会社全体では対計画では増益であったとはいえ、フーズカンパニー以外のカンパニーの対計画では、営業利益は目標に達していません。
- 今後も日々の適確・適正なオペレーション、安全・安心の提供、構造改革の継続、優先順位の低い業務の見直し改善や、新規顧客・市場開拓による新たな価値の創出の各種施策をさらに推進していかなければなりません。
- 業績や経営状況を踏まえるとともに継続して取り組んでいただいている構造改革への取り組みや、各カンパニーにおける増収施策への取り組みなどを総合的に勘案し、今後も一人ひとりが良質な危機感と旺盛な問題意識を持ってチャレンジし続けることを強く期待して回答しました。

会社業績			一時金						
年度	営業利益	当期純利益	社員群	基準月数(年間)	その他(年間)	基準月数(夏季)	その他	基準月数(年末)	その他
2021年度	△10,226百万円	21,705百万円	社員(正・地)	3.600ヵ月	0円	1.800ヵ月	0円	1.800ヵ月	0円
			F・Tスタッフ	2.160ヵ月	0円	1.080ヵ月	0円	1.080ヵ月	0円
2022年度	5,161百万円	5,782百万円	社員(正・地)	3.700ヵ月	0円	1.800ヵ月	0円	1.900ヵ月	0円
			F・Tスタッフ	2.220ヵ月	0円	1.080ヵ月	0円	1.140ヵ月	0円
2023年度	15,393百万円	11,147百万円	社員(正・地)	4.500ヵ月	0円	2.100ヵ月	0円	2.400ヵ月	0円
			F・Tスタッフ	2.700ヵ月	0円	1.260ヵ月	0円	1.440ヵ月	0円
2024年度	16,627百万円	8,888百万円	社員(正・地)	5.100ヵ月	0円	2.500ヵ月	0円	2.600ヵ月	0円
			F・Tスタッフ	3.060ヵ月	0円	1.500ヵ月	0円	1.560ヵ月	0円
2025年度	(17,927百万円)	(10,853百万円)	社員(正・地・工)	5.500ヵ月	0円	2.700ヵ月	0円	2.800ヵ月	0円
			F・Tスタッフ	3.300ヵ月	0円	1.620ヵ月	0円	1.680ヵ月	0円

第2回団体交渉における論点（会社回答の確認・労働組合主張に対する会社回答）

--- 基準月数の検討について ---	
組合	夏季一時金よりも0.1ヵ月上積みされた回答となっていますが、この回答に至った考え方、検討された要素を具体的に教えてください。
会社	2025年度上期も前年度を上回る利益であったことについて、本当に皆さんの尽力の賜物であると思っています。どうしたら最大限の回答を出せるかということを考え、検討した結果、今回の回答内容としました。
組合	基準月数を決定するうえで会社業績は重要な要素になると捉えていますが、社長をはじめ各カンパニー長の考えも踏まえて回答するにあたり、各カンパニー共通して重視したのはどのような観点でしょうか。
会社	<u>定量的な営業利益ということだけではなく</u> 、新規顧客・市場開拓による新たな価値の創出など、 <u>各施策への皆さんのこれまでの尽力</u> ということも含めて回答しています。

--- 職場の努力・頑張りについて ---

組合	組合員・従業員は、「会社が自分たちの努力・頑張りをどのように見ているか」という考えに期待しており、 <u>会社の考えに納得できるかがポイント</u> になると考えています。 <u>具体的にどのような点が評価</u> されたのでしょうか。
会社	インフレ局面でのお客さまへの訴求については、皆さんの奮闘によって、今の売上が成り立っていると考えており、その <u>頑張りについては極めて重要視</u> しています。しかし、 <u>売上よりも経費が増える傾向が非常に強いため、今後も工夫して進め、さらにみんなで良い会社になりたい</u> と思っています。

--- 設備投資・成長投資について ---

組合	将来に向けて会社業績を高め続けていくためには、 <u>設備投資・成長投資をおこなうことが必要不可欠である</u> と考えていますが、具体的な取り組みなどがあれば教えてください。
会社	<u>新規開業や既存施設のリニューアル</u> 、また、会社全体として「システム化」は大きなテーマとして積極的に取り組んでいます。 さらに <u>休憩室や寮の整備</u> など、費用をかけて積極的に取り組んでいます。 会社としては、 <u>利益を原資とした投資経費の有効活用を通じて、社員の幸福を実現するスパイラルは永続的である</u> という考えです。
組合	組合員・従業員が「この会社で働きたい」「働いていて良かった」と、 <u>JR-Crossの未来を感じられるような、価値のある投資を引き続き見極めておこなっていただきたい</u> 。

--- 物価上昇について ---

組合	「会社が自分たちの生活を守ろうとしてくれている」ということが組合員・従業員に継続的に伝わることで安心感が得られ、結果としてエンゲージメントを高めることができると思っています。
会社	物価は上昇していると捉えており、皆さんの生活に影響していることも承知しています。しかし、 <u>一時金については会社の業績に基づいて月数を決定しているため、物価上昇が一時金に反映することにはならない</u> と考えています。

--- Aスタッフ一時金の業績加算について ---

組合	Aスタッフの一時金へ9,000円の業績加算をおこなう考えを教えてください。
会社	社員と同様、会社の業績を踏まえて検討をおこないました。計画には達していないなかではありますが、 <u>昨年並みの利益を確保していることも考慮して金額を決定</u> しました。

《JR-Cross労組・執行部としての受けとめ》

- 2025年度第2四半期決算状況を踏まえると、フーズカンパニー以外では計画に対し営業利益が未達成という状況で、夏季一時金を上回る回答が示されたことは大きな判断であると捉えられる。
- また、今年度も賃金改善がおこなわれたうえで過去最高の月数が示されたことは一定の評価ができる。
- 会社の発言からは、特に、それぞれの職場で働く従業員の努力・頑張りが評価された回答であると捉えられる。
- 要求趣旨・組合員の皆さんからあげられた声・想いを踏まえたうえでの回答が示されたが、判断するうえでは、回答内容だけではなく、労使双方が互いの考えや想いを理解して納得できるかどうかが重要だと考える。

《今後の進め方について》

- 第1回団体交渉では要求趣旨・組合員の皆さんからあげられた声・想いを主張し、第2回団体交渉では要求に対する会社の考えを確認してきました。
- 会社から示された回答は一定の評価ができるものの、私たちの要求には達していないことから、「もう一步踏み込んだ再度の検討」を求めています。
- 組合員の皆さんが、団体交渉経過（会社の回答内容や考え）をどのように捉えるのかという声を踏まえて、会社への主張・確認点について整理するとともに、回答に対する最終的な判断をおこなうこととします。

《お知らせ》

職場集会の開催・職場巡回・アンケートおこないます

- 職場集会・巡回：2025年11月14日～11月19日
- アンケート：2025年11月14日～11月20日



次回団体交渉では、皆さんからあげられた声・想いをもとに主張をおこないます。
ぜひ、職場集会への参加、アンケートへの回答のご協力をお願いします！

第3回団体交渉 2025年11月21日（金）13：00開催